

ビキニデー集会アピール

1954年3月1日、南太平洋・ビキニ環礁でのアメリカによる水爆実験によって、「第五福竜丸」をはじめとする日本の漁船が被爆し、その後、「第五福竜丸」乗組員の久保山愛吉さんが原爆症によって亡くなりました。

私たちはこの被害の実相を継承し、核廃絶の決意を再確認するため、毎年3月1日に静岡での集会を行ってきました。コロナ禍によって一昨年・昨年とオンライン開催としてきましたが、本年は全国から現地に集い、思いをともにすることができたという、その意義を確認したいと思います。

日本の原水爆禁止運動は、まさにこのビキニでの被災を契機にして、大きく広がったという歴史的経過があります。広島・長崎・静岡の被爆3県を中心とした核廃絶を訴える声は、核の非人道性を明らかにし、被爆の実相を理解するうえで、世界の人びとの心を揺り動かし、核廃絶への道筋を示し続けてきました。

しかし、残念ながら、いまなお核兵器の廃絶は実現していません。昨年2月24日に始まったロシア・ウクライナ戦争は終結を見通すことが難しい状況に陥り、泥沼の長期戦が続いています。このなかではロシアによる核兵器使用の威嚇が繰り返され、原発を攻撃対象とする事態も引き起こされています。また、米中対立も背景に、核兵器の増強や近代化研究が続けられています。

日本においては、「非核三原則」の見直しや「核シェアリング」導入検討が必要だと公言する勢力が、政府与党内部にも登場しています。さらに、「台湾有事」を煽り立て、改憲と軍拡への道へと突き進もうとしています。

こうした状況について、被爆地・広島選出の岸田文雄首相はあいまいな態度に終始しています。5月にはG7を広島の地で開催しようとしています。被爆者の核廃絶への思いを利用しながら踏みこむものと言わざるをえません。まずは戦争被爆国である日本が、率先して核兵器禁止条約(TPNW)に署名・批准し、国際的な信用を得た中で、核保有国に対し、核の先制不使用宣言を求めるなどのリーダーシップを果たすべきです。

国内外の核と戦争をめぐる情勢は厳しいものがありますが、TPNWは発効2周年を迎えた現在、署名92カ国(地域)・批准68カ国(地域)とさらに拡大を続けています。世界の核廃絶を求める人びとの思いは、けっして無意味でも無力でもありません。

私たちは「核と人類は共存できない」ということばをいまこそ、いっそう明確に掲げながら、世界の人びととの連携をつくりだしていかなくてはなりません。核も戦争もない世界の実現に向けた決意をあらためて確認し、ビキニデーアピールとします。

2023年3月1日

被災69周年 3.1ビキニデー全国集会